

# JELA NEWS

ジェラニュース 第18号 2009年4月15日発行 発行責任者 古川文江

日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp 口座番号 00140-0-669206 加入者名 日本福音ルーテル社団

難民支援/アジア子ども支援/ブラジル子ども支援/ボランティア派遣/リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座/奨学金制度/宣教師支援

## 社会に出ていき 手をさしのべる

「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが乾いていたときに飲ませ、  
旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれた。」  
マタイによる福音書 第25章35～36節



JELAと日本福音ルーテル教会世界宣教委員会が主催する第6回世界の子ども支援チャリティコンサートが、5月から6月にかけて全国8箇所の日本福音ルーテル教会(知多、小鹿、田園調布、稔台、大岡山、本郷、健軍、甲府)で開催されます。今回は7つの教会が初めて会場となりました。演奏者はハーピストのレベッカ・フラナリーさん。こちらも今回が初登場です。詳しい内容は3ページの開催要領をご覧ください。

## 第6回世界の子ども支援チャリティコンサート、もうすぐ開幕

**[この号にはこんな記事が]** グループ・ワークキャンプ同窓会(森田哲史)……2 今夏のグループ・ワークキャンプ……2 第6回世界の子ども支援チャリティコンサート開催要領……3 JELA歴史コラム4(長尾博吉)……3 ブラジル子ども支援……4 インドの病院に外務省補助金……5 難民クリスマス・パーティ(大山寛子)……6 難民申請者の生活保障……6 リラ・プレカリアへの反響……7 お知らせ……8

# ボランティア派遣プログラム



久しぶりに会ったのに、この盛り上がりぶり。同窓会ならではの光景。(田園調布教会にて)

JELAは日本福音ルーテル教会と共同でアメリカ、インド、カンボジアへ短期ボランティアを毎年派遣しています。アメリカのグループ・ワークキャンプへは2001年から青少年の派遣を開始し、これまでに百名近い参加者が与えられました。毎年、洗礼や堅信礼を受ける者が与えられる祝福されたキャンプですが、JELAも教会も、個人の信仰成長にとどまらず、参加者が連帯して日本で新たな奉仕活動に携わったり、教会を活性化する働きを始めることを期待しています。その第一歩として今年初頭に、過去の参加者自身がイニシアチブをとる形で、これまでの参加者全てを対象とした同窓会が開かれました。以下は、その企画者からの実施レポートです。

## 第一回グループ・ワークキャンプ同窓会を企画して

森田哲史(田園調布教会)

年が明けて間もない1月5日、6日にグループ・ワークキャンプの同窓会が行われました。グループ・ワークキャンプとはJELAとJELCの共同プログラムとして、アメリカで開催されている奉仕キャンプに青少年を派遣しているプログラムです。日本からの派遣は2001年に始まり、これまでに計8回、100人以上の青少年が参加してきました。私は2003年のキャンプに参加しました。今回は「大同窓会」と称し、過去の参加者全員に参加を呼びかけ、30人弱の参加がありました。

私たちが今回このような企画を発案

するにあたっては次のような経緯がありました。私が参加した6年前のグループ・ワークキャンプでは大きく心が揺さぶられるような貴重な経験をしました。キャンプでの経験は私の信仰生活において重要な土台となっていますが、最近はその熱い気持ちを思い出すことが少なくなっていました。そこで、当時のあの思いを忘れないために、メンバーとの再会によって、これからの信仰生活で立ち返る場所をもう一度固めたいと、同窓会の開催を決意しました。

当日は、初めて顔合わせをする人もいたので、アイスブレイク(=親しくなるための簡単なゲームなど)で緊張をほぐし、みんなで夕食を作りました。「アメリカを感じる」をテーマにハンバーガーとフライドポテトを作り、みんなで美味しく頂きました。その後は英語の賛美歌を歌ったり、それぞれの年度の参加者の自己紹介やエピソードを披露し、当時の思い出に浸り、他の年度の話聞いて交遊を深めました。また参加者の中の2人に証しをしてもらい、当時の情熱に立ち返ることが出来ました。夜は寝袋を持参し、修学旅行のような気分語り、夜を明かしました。

今回、初めてこのような企画をして、最初は顔見知り10人集まれば良いかなと考えていました。しかし、蓋をあけてみれば20人以上と、同窓会と呼べるだけの人数となり、胸をなでおろしています。今回良かった点としては、地方からの参加者の交通費を全員で負担できたことや、自主開催だったので、自由な枠組みで企画できたことが挙げられます。課題としては、現在教会から離れてしまっている人

への呼びかけ、交通費負担のあり方、多くの人に参加しやすい日程の設定などが挙げられると思います。

今後は、このような会が何年かに一度開催されれば良いと思います。2010年で日本からの派遣が十周年となるので、そのあたりを目安に、活きのいい学生に企画して欲しいです。また、新たな参加者への情報提供や体験談をフランクに話せる場が持てたらいいと思います。自分の参加した年で完結するのではなく、共通の体験をした仲間として関わりを持ち、多くの人々がグループ・ワークキャンプに関わり続けることが出来るようになって欲しいと思います。(この同窓会は、筆者と京都教会の山下七瀬さんが一緒に企画しました。)

## 今夏のグループ・ワークキャンプ速報

1月に募集を締め切った今年度のグループ・ワークキャンプには、8名の参加希望者が与えられました。うち6名は日本福音ルーテル教会会員(福岡西、広島、熊本、大岡山、札幌、むさしの)、1名は玉名カトリック教会会員、もう1名は九州ルーテル学院の高校生です。8名の内訳は女性7名・男性1名と、例年どおり圧倒的に女性が多いです。グループ・ワークキャンプ同窓会の皆様の初仕事としては、男性参加者さがしに知恵をしばっていただきたいところです。

ホームステイとキャンプを含めた日程は7月23日から8月6日までです。今回のキャンプ地はノースカロライナ州にあるため、ホームステイは、JELCと姉妹関係にあるELCAサウスカロライナ・シノッドにお世話になります。また、米国に留学中でサウスカロライナのセント・アンドリュース教会で研修している佐藤和宏牧師にも、キャンプのスタッフとして現地で合流していただく予定です。

キャンプのテーマはReveal(啓示する)で、ルカによる福音書4章14節—21節が聖書箇所です。イエスが安息日に故郷ナザレの会堂に入って、イザヤ書に示された主の恵みの業とそれを行う主体が自分であることを示し、彼を見つめる会衆に向かって、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」(21節)と高らかに宣言される場面です。

参加者とスタッフすべてがこのようなエキサイティングな体験ができる、祝福に満ちたキャンプになるよう、今から祈りに覚えていただくと幸いです。

# 第6回「世界の子ども支援チャリティコンサート」開催要領

## ●テーマ

Helping Children in Need 餓えや病気に苦しむ子どもたちに愛と希望を!

## ●主催

日本福音ルーテル社団(JELA)／日本福音ルーテル教会・世界宣教委員会

## ●協賛団体(順不同。一部交渉中)

シュローダー証券投信投資顧問株式会社／野村證券株式会社／石橋葬儀社／株式会社ハリファックスアソシエイツ／株式会社西村建築設計事務所／精文堂印刷株式会社／泰成印刷株式会社／株式会社ソニック・オクムラ／有限会社リフォーム・イケ／本郷学生センター

## ●日程・会場

### ■5月16日(土)午後2時

日本福音ルーテル知多教会

### ■17日(日)午後2時

日本福音ルーテル小鹿教会

### ■22日(金)午後7時

日本福音ルーテル田園調布教会

### ■23日(土)午後3時

日本福音ルーテル稔台教会

### ■24日(日)12時半

日本福音ルーテル大岡山教会

### ■29日(金)午後7時

日本福音ルーテル本郷教会

### ■31日(日)午後2時

日本福音ルーテル健軍教会

### ■6月6日(土)午後2時半

日本福音ルーテル甲府教会

\*開場は上記の30分前。入場無料。ただし席上献金あり。

## ●演奏者

レベッカ・フラナリー氏

(Ms.Rebecca Flannery)

欧米で活躍するハープ奏者。エール大学音楽修士。カーネギーホール、リンカーンセンター等で室内楽コンサートを開催。ゲオルグ・ショルティ、アロン・コープランド、オットー＝ヴェルナー・ミュラー等が指揮するオーケストラとの共演歴を有する。本年4月からはルーテル学院大学客員講師として教壇に立っている。

## ●演奏予定曲目

スカララッティ、スコットランド民謡、アイルランド民謡、日本民謡、賛美歌

## その他

### ●献金の用途

JELC連帯献金(世界の子どもたちのために)／JELAが支援するアジア、ブラジルの貧しい子どもたちや、日本国内の困難と直面している子どもたちのために用います。

### ●問い合わせ総合窓口

日本福音ルーテル社団(JELA)  
150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26

電話:03-3447-1521

ファックス:03-3447-1523

E-mail:jela@jela.or.jp



## JELA歴史コラム その4

### 「人の知恵に優る神の知恵」



JELA常務理事  
長尾博吉

このJELAニュースの歴史コラムをお読み頂いた読者から、日本福音ルーテル教会の宣教開始当時の事が偲ばれ幸いですという感謝のお言葉を頂き恐縮しています。しかし、読者の中には、社団の歴史の中にどうして、福音ルーテル教会のことや九州学院という学校のことが出てくるのか、その関わり不思議なものを感じておられる方もおありと存じます。その点につきましては、お読み頂いている間に追い追いかけてお分り頂けると思いますが、社団の歴史と教会、学校、社会福祉施設並びにその他ルーテルグループの歴史とは、深く関連し、交錯する部分が

多くあるのです。戦後特別法ができ教会や学校、福祉施設が法人となる前は、米国宣教師会を中心とする本社団法人が、それら諸施設の包括団体であったわけです。社団法人は、いわばそれらの教会、学校、諸施設の母体、前身であったわけです。それでその歴史において重なる部分があるわけです。

前回のコラムで少し触れましたように、米国教会の宣教活動は、徐々に佐賀から久留米、熊本、福岡、東京へと伸展するにしたがって、宣教師達の住まう住宅、福音宣教の拠点とすべき教会、学校、社会福祉施設等の宣教資産の管理をどのようにするか、喫緊の課題であったわけです。そこで勘案されたのが、民法に基づく法人となり、それら宣教資産の管理保全に努めるに至ったわけです。これが当社団法人創設の遠因であったわけなのです。

当時、我が国においては、明治維新による宗教的混乱が治まりつつある段階でした。明治元年の神仏分離令に基づく「廃仏棄釈」運動は苛烈を極め、福井・石川

地方では今日においても、曾ての仏寺伽藍を毀損したその爪痕は語り伝えられています。明治政府はその混乱を一日も早く解消するために、仏教及びその他の宗教に法人格を与えるよう宗教法人法の設定を急いだのですが、その企ては思わしく伸展しなかったのです。しかし、我が国は開国したばかりであり、日々流入する外国の宗教をどう扱うかは、差し迫った課題であったのです。そこで、政府は、外国の宗教を便宜的に民法法人として認めるに至ったのです。

その結果として、「在日本アメリカ合衆国南部福音ルーテル教会ユニテッド・シノッド宣教師社団」という長い名前の民法法人の創設を見たわけです。これが現JELAの前身なのです。何が何でも我が国に福音を宣教するという宣教師達の熱意が公益法人としての宣教団体を産み出したのです。正に、名を捨てて、実を取ったのです。これこそが神の知恵でなくて、何というのでしょうか。

# ブラジル・プロジェクト報告



CEDEL



ジアデマ集会所

## ●CEDEL第二校舎完成

ブラジル・ポルトアレグレの青少年教育福祉施設・CEDEL(福音ルーテル・ディアコニアセンター)では、かねてより市より提供された隣地での第2校舎建築を計画していました。その資金不足を解決するためにJELAは日本政府の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」への申請を提案し、CEDEL理事会をサポートして現地領事館に申請手続きをした結果、上限の1000万円の支援が決定しました。なお不足する360万円のうちの120万円をJELAが支援することによって、2008年11月7日落成式を迎えることができました。

この落成式にお招きを受け、JELAから中川理事長、古川事務局長、星崎新ブラジル担当、グリテバック前事務局長が参加しました。

当日は、日本外務省の三浦春吉ポルトアレグレ出張駐在領事も出席され、ポルトガル語での祝辞をいただきました。また、中川理事長も挨拶のあと、子どもたちから感謝状を贈呈されました。

JELAからお祝いとして、小嶋三義先生に制作していただいたキリエ(切り絵)「わが子は神のもの」を贈呈し、関係者の方々と共に喜び、祝い、神様に感謝しました。以下に、現地から届いた感謝の手紙をご紹介します。



ヘジーナさん(左)と三浦領事

まだ保護の手がゆき届いていない子どもたちのために、またプログラムの質と多様性を高めるために、第二校舎建築は私

たちの祈りでした。私たちはJELAによって日本政府からの資金援助への道を示され、2007年4月にJELAと共に在ポルトアレグレ日本領事館を訪ね、申請準備に取り掛かりました。同年12月、私たちの申請が日本政府により採択され、2008年3月に1千万円の資金援助交付を受けました。そして日本とブラジルの支援者の皆様からのご支援も得て、2008年11月に遂に第二校舎が完成しました。私たちは、ブラジルの人びとの尊厳と権利を重視して建築費の70%を援助してくださった日本政府と、ご尽力くださった三浦春吉ポルトアレグレ出張駐在領事に心から感謝します。また、常に愛をもって私たちに励ましてくれる良き友人のJELAと、すべてを可能にくださった神様に感謝します。



子どもたちより感謝状をいただく中川理事長

第二校舎は、総床面積280平米、5教室を持つ2階建てです。1階の第1教室はコンピュータ室、第2・第3教室は13歳から16歳の50名の青少年と、家族や地域の住民対象のプログラムに用います。開放

すると大教室になる2階の2部屋は職業訓練のための作業場として活用します。教室には机や椅子等さまざまな備品が必要ですが、皆様に助けをいただきながら徐々に整えたいと考えています。

第二校舎が与えられた今、私たちは、傷つき痛み、保護を必要としている人びとと更に強く連帯し、神様から託された働きに邁進する決意を新たにしています。これからもお祈りに覚えてお支えくださいますようお願い申し上げます。

CECEL理事長

ヘジーナ・ディートリッヒ



子どもたちもダンスでお祝いました



入口にはJELAの名前も大きく



左側が新校舎

## ●ジアダマ伝道所落成式

また、貧しい家庭の多いサンパウロのジアダマ地区ではルーテル日系南米教会が狭い部屋を借りて集会を開いてきましたが、永年の願いであった伝道所の建築が完成し、11月9日(日)午後、落成式を行いました。総工費750万円の内、JELAは250万円を支援しました。今後、礼拝堂と2階を増築する予定です。以下は建築委員長の菅氏より届いた手紙です。



記念として管理人ジュリアさんにキリエを贈呈

「最初にこの建設を可能にしてくださいました神様に感謝を捧げます。この建築に際しては、この土地を購入し、建築費をご支援くださいました南米教会の山口兄の大きなお力添えがありました。またJELAを通して日本の皆様のご協力をいただき、さらに南米教会と日系パロキア、そのほか多くの方々のお祈りと財政的ご支援があったことを覚えます。6月19日に第一次計画である集会室の建築に取り掛かり、ようやく今日このように喜ばしい落成式を迎えることができました。建築委員長としてご協力くださいました多くの皆様に心から深く感謝いたします。本日のこの第一歩を踏みしめて、シノドと共にこの教会が前進しますことを心から祈願しております。」

これは去年11月9日に行われましたジアダマ伝道所の第一次建設の落成式で申し上げたご挨拶です。会堂建設を心待ちにしていたジアダマ伝道所の会員たちは、与えられた建物を感謝し、有効に活用しようと祈り、考え、力を合わせています。次に必要なのは、4つの教室と2つの小さな寝室を備えた2階部分の建築です。教室は、日曜日の教会学校の分級に不



近くの子どもたちも集まって賑やかなパーティ

## JELAのインド・プログラムに外務省補助金

JELAはアジア子ども支援の中のインド支援地である、ジャムケッドのNGO「総合的地域健康プロジェクト」(CRHP)が新築する病院に、必要な医療機器を設置しその操作法などを訓練する事業を企画し、この医療機器購入費用について外務省の「NGO連携無償資金協力」という補助金に昨年申請しました。このほどそれが正式に承認され、約450万

円の補助金を3月にいただくことができました。この補助金で購入する医療機器を使うことにより、経済的に貧しい人々が多く住むCRHP周辺地域の医療レベルの向上に貢献できます。下の写真は、建築途中の病院ですが、このニュースレターが発行されるころには完成し、4月5日に落成式が行われます。次号で最新情報をお分かちします。



可欠です。また週日には子どもたちの基礎学習や英語の授業のために用い、また手芸や音楽、パソコン教室にといろいろな目的に用います。2つの寝室は、お客様や海外からのボランティアの宿泊に当てることができます。早い時期に第二次建設に取り掛かれるよう私たちも一層の努力をいたしますので、日本の皆様方もジアダマのために引き続きお祈りいただき、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

南米教会会員、ジアダマ建築委員長  
菅 和夫

## 2008年度ブラジル子ども支援会計報告

イースター献金として送金(7件)	1,127,356円
クリスマス献金として送金(7件)	817,416円
JELC/JELA共同プログラム南米教会子ども支援	1,200,000円
ジアダマ青少年センター(伝道所)建築支援	1,250,000円
CEDEL校舎建築支援	1,200,000円
合計	5,594,772円

ブラジル子ども支援指定献金入金額  
(延べ141名) 2,007,221円

上記の献金入金額は、ブラジル子ども支援としてご指定いただいた金額です。この他多くの方から一般献金としてJELAのプロジェクトをご支援いただきました。このことを覚え、感謝して報告いたします。



# JELAホールでの難民クリスマスパーティ

ASPnetwork代表 大山寛子



大山さん(右端)と難民家族

スタンドグラスがライトアップされクリスマスソングが流れる会場は、まさに訪れるお客様全員にとってパーフェクトなクリスマスパーティ会場でした。

ASPnetwork(アスペネットワーク)は、在日難民と日本の若者との架け橋となるため、啓蒙活動・交流活動・学習活動などを柱に活動しているユース団体です。心身ともに疲弊している在日難民の方および難民申請者の方々に、笑顔で過ごせる素敵な時間を一と始まったこのパーティも、さまざまな方々のご協力を賜り、今回で4回目を迎えることができました。その会場として、今回快く手を差し伸べてくださったのが、日本福音ルーテル社団様です。提供いただいたJELAホールは、都心にありながらも、スタンドグラスが印象的

な、素敵なホールでした。

今回はイラン難民のFさん、クルド難民のBさんやビルマ(ミャンマー)難民のNさんの協力をいただき、各国の手づくり料理を提供することができました。また、難民の方に母国語の挨拶を習うというグループワークを取り入れたところ、日本人のお客様からも、難民の方々からも大変好評でした。毎年恒例のプレゼント交換会や難民の方のパフォーマンス(急遽全員参加となりましたが・・・)などなど、みんなで一緒になって交流する場もあり、皆さんの笑顔を見ることで、このパーティの成功を確信いたしました。

壮絶な過去を持ちながらも、一生懸命生きる在日難民や難民申請者の方々。人間らしく生きる、そんな当たり前のことすら難しい環境におかれた彼らを、同じ仲間として、少しでも支えられたら。微力ながら、日本の若者にそれができたら、未来は少しでも明るくなるように思えてならないのです。そんな、私たちの日々の想いを形にする場でもある難民クリスマ

スパーティを、ともに在日難民のために手を施されているJELAにて行えた事に改めて感謝の意をお伝えさせていただきます。

最後に、会場を借りるためにご尽力いただき、時に励ましてくださり、パーティ当日は乾杯のご挨拶まで引き受けてくださいました、森川様、本当にありがとうございました。



JELAハウス居住のイラン難民F氏の挨拶



パーティに集った難民と日本人の支援者

## 難民申請者の生活保障を政府に申し入れ

日本で難民申請している人々は、法務省の判断を待つあいだ就労を認められない方がほとんどで、申請中に外務省が支給する生活支援金(保護費)が命綱の役割を果たしています。12月初旬に、この保護費の支給を一時見合わせるという事態が発生しました。会計年度末は3月末のため、経済的に困窮している難民申請者にとっては緊急事態です。事実を重く見たJELA、難民支援協会、アムネスティ・インターナショナル日本などの難民支援NGOは連携し、12月11日に外務大臣政務官を訪問して事態の改善を求める文書を手渡すと共に記者会見を開き、世間にアピールしました。この模様は当日夜のNHKニュースウォッチ9など複数のメディアに取り上げられたことからニュース性の高さがうかがい知れます。幸い政

府も機敏に対応し、年度内の財源枯渇は回避できる見通しとなりました。しかし、難民申請者数の増加傾向は取まる気配が

ないため、保護費の扱いについて外務省がNGOと定例協議会を開く動きがあり、今後の動向が注目されます。



記者会見の様様。中央がJELA事務長・森川博己

## ホームレスだった方からの手紙

リラ・プレカリア・プログラムの責任者であるキャロル・サック宣教師は、毎週一回、東京山谷にある「きぼうのいえ」(行き場を失った・家なき人のホスピスケア施設)でリラ・プレカリア(ハーブと歌による祈りのケア)の奉仕をしています。先日、一人の男性から次のような感想をいただきました。

最初は半信半疑だった(半分疑っていた)。  
2回目のハーブのとき、  
今まで思い出したことなかった  
父親のことを思い出した。  
親不孝したなーと。  
何が、体から感じ出した。  
現実からはなれて。  
あれは地上の音楽ではなくて、天上の音楽。  
そそやくような歌がハーブと一緒にあって、  
こんな音楽を聴いたら  
かえって死んだほうが、いいことがあるんじゃないか  
かえって思ってしまうね。

楽園の入り口にいるような  
こんな気持ちになれるんだって、自分でもおどろいた。  
おれも捨てたもんじゃないと思ったよ。

## ハーベスト・タイムでの大反響

キリスト教テレビ番組『ハーベスト・タイム』でリラ・プレカリアが「祈りのハーブ」として紹介されました(8P参照)。ご覧になった方々から、遠くはアメリカからもお問い合わせをいただき、反響の大きさに驚いています。以下にその一部をご紹介します。

□ハーベスト・タイムの記事で読みました。以前から、そんな奉仕をしたいと思っていましたが、ハーブを弾けるのでもなく、漠然と思っていました。今回記事を読むと出来るかもしれないと思い、一度詳しい資料を送ってほしくなりました。よろしくをお願いします。(大阪府Hさん)

□先日ハーベスト・タイムという宣教番組を通し、「リラ・プレカリア」の働きを知りました。アイリッシュ・ハーブを習っていた時期があり、大変興味を持ちました。信仰生活26年、子育ても手のかかる子もいなくなり、今は職業を持っていませんので、祈る時間も十分あり、自分にできる奉仕

は何かと模索していたところでもあります。ハーブを演奏していると自分自身が心をほぐされることを経験していただけない、祈りつつ病床で演奏される働きに感銘いたしました。以前に住んでいたところではホスピスでクリスマスキャロルをさせていただいたこともあり、終末期の方の音楽への関心の高さを垣間見たことも思い出しました。(富山県Oさん)

□まだ受洗して間もないクリスチャンです。昨日友人からハーベスト・タイムの新聞をいただき、そこに「祈りのハーブ」のことが載っていました。娘は今14歳ですが、9歳からアイリッシュ・ハーブを習っておりますので、二人でこの記事を読みました。すばらしい活動に涙を流しながら読みました。いずれ娘もそのような活動ができれば、と思います。(京都府Nさん)

## リラ・プレカリア



ハーベストタイムTV画面より

□カルフォルニア在住のクリスチャンです。先日ハーベスト・タイムの番組を通して、JELAでのリラ・プレカリアの素晴らしい働きを拝見し、とても感銘し興味を惹かれて、ウェブでそちらのサイトを検索し見つけることが出来、感謝しております。勿論私はアメリカに居りますので、そちらで講座を取ることは出来ませんが、なにか、インターネット上または、本とかを購入させて頂き、こちらで、研修することができないでしょうか？ わたしはハーブではなく、フルートを何年か個人教授を受けて学んで参りました。いつの日にか、主の導きを受け、神の栄光のためと思つて励んで練習を続けていたのですが、ここ3、4年離れておりました。でもまたこの機会を通して、なんとかホスピスなどでの音楽の祈りというもので、奉仕が出来ないものかと願っております。God bless you, (A・Kさん)

□私事ですが、1週間前に父に癌がみつき、初めて親しいものとの「別れ」について痛感している日々です。ちょうど同じ時期に、ハーベスト・タイムのDVDでこの番組を見たものですから、本当に心が震えるようでした。大げさですが、神様からのメッセージではないかな？ と思いました。(長野県Iさん)

## 神水教会でリラ・プレカリアを 実演します

JELC女性会連盟80周年記念総・大会が6月3日(水)～5日(金)に熊本で開催されますが、その中で4日(木)午後2時30分より神水教会にてリラ・プレカリア(祈りのたて琴)を紹介する機会が与えられました。プログラム責任者のキャロル・サックによるパワー・ポイントを使ったプログラム紹介と、ベッドサイドでのハーブの実演を予定しております。たくさんのご来場をお待ちしております。

## 「祈りの輪」

(リラ・プレカリア公開講座から)

昨年11月に「祈りの輝き—祈りの輪」のワークショップがリラ・プレカリア公開講座で紹介されました。「祈りの輪」はスウェーデン、リンショッピンのビショップ、Martin Lonnebo監督が考案された、教派を超えた教会一致運動(エキュメニズム)の一つです。長谷川(間瀬)恵美講師の「祈りと黙想が信仰生活に欠かせない要素である」という趣旨のお話の後、各自が「祈りの輪」を作成しました。「祈りの輪」を実際に手に取り、触れ、心を落ち着かせ、黙想の一時を過ごすことがこの講座の趣旨でした。長谷川先生から一つ一つの珠の名前を教えていただき、それぞれが持つ真意(神・沈黙・私・洗礼・砂漠・平穏・愛・神秘・闇・希望)に思いをめぐらせながらつなぎ合わせました。それだけでも妙にとっても心が落ち着く体験でした。受講者の一人は、ストリングに珠が「ストーン」と入ると同時に、心の奥につかえていた何かが溶けて「すとん」と響くようだったと話されました。そして今また、つなぎ上がった「祈りの輪」の珠を順に手繰っていると、実に不思議に神様と向き合う(祈りの)心構えができるのが分かります。(受講者・中村明日香)

## アジア学院に朝日社会福祉賞

JELAはアジアの人材育成のために、栃木県のアジア学院(ARI)で農業技術の研修を受ける人々に奨学金を毎年提供しています。このARIが、2008年度朝日社会福祉賞を受賞しました。1947年に朝日賞の社会福祉賞部門として設置され、1975年から独立の賞となって以来、社会や福祉に貢献した、功績の著しい個人または団体に毎年贈られてきまし

た。日本キリスト教海外医療協力会、阿部士郎、柏木哲夫、日野原重明、女性の家HELPなどキリスト教関係者も過去に受賞しています。ARIの受賞理由は、「アジアやアフリカなどの農村指導者の養成を長年続けてきた功績」によるものです。JELAは2月6日の授賞式とレセプションに招待され、ARIの関係者と共に受賞を喜び合いました。

## JELAのプログラムがテレビで放映されました

「インド・ワークキャンプ」(写真右上)と「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)」(写真右下)の働きが、キリスト教テレビ番組「ハーベスト・タイム」で12月に2週連続で放映されました。「ハーベスト・タイム」(ホスト:中川健一師)は週末に放映される30分番組で、20年以上にわたり日本全国と米国で、毎週多くの視聴者にキリストの福音を伝えています。JELAの活動を取り上げた回では、JELAミッションセンターの外観や事務室を背景に、JELAの活動全体も紹介されました。番組は英語の字幕付でインターネットでも視聴ができます。  
<http://www.harvestinternet.tv/index.php>



恵/野田マサ子/芳賀美江/箱崎教会女性の会/早瀬康平/原田恵美/ハーベスト・タイム・ミニストリーズ/ハルボーセン美智代/日野原真紀/兵藤真里子/平田幸子/平林洋子/深川育子/福田耕三/藤井浩/礼子/藤橋日出子/淵田康穂/古川文江/ベンケ・パトリック/保谷教会/保谷教会婦人会/星野幸子/本郷学生センター/増子美文/益永和代/松隈貞雄/松澤洋子/松嶋俊介/水野豊子/稔台教会婦人会/宗方美代子/毛利庄蔵/森保宏/森田雅子/八坂由貴子/山県順子/山口美子/山際喜佐夫/山崎恵美子/山田嘉子/山本一男/雪ヶ谷ルーテル教会/ルーテル学院幼稚園/若原奇美子/和田雪香/渡辺高伸/映子/Elvira M. Aamodt/Our Savior Lutheran Church/R.E. Cunningham & E.M. Cunningham/ELCA Florida Bahamas Synod/Elk Horn Lutheran Church/Kenneth Dale/Norma Beil 他匿名複数

### ● 賛助会費

市川裕子/梅田満枝/神崎伸/倉知延章/桜井永之/柴田豊/中金律子/日本ルーテル教団関東地区婦人の集い/東山義夫/深澤理香/淵田康穂/松隈貞雄/松嶋俊介/森田雅子/ 他匿名複数

以上、敬称略。ご協力ありがとうございます。  
 なお、匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

## コーヒーを飲んで 世界の子ども支援ができる!

JELAでは今後の経済的基盤を確かなものにするためのファンドレイジング(寄付募集)が必要とされています。このたび、飲料メーカーダイドードリンク株式会社との提携によって東京のJELC事務局のあるルーテル市ヶ谷センター2,3Fのダイドーの自販機でコーヒーやジュースを買くと、その売り上げの一部が同社より自動的にJELAに寄付される事になり



ました。地道な方法ですがこのように息の長いファンドレイジング活動を今後も続けて参ります。このような自販機が設置できる場所をご存知の方は、どうぞJELAまでご紹介ください。

### 支援者一覧

(2008年10月1日~2009年2月28日)

#### ● 各プログラム支援献金

赤間峰子/浅見正一/君江/東牧子/荒井梯次郎・和子/有坂敬臣・日出子/安藤淑子/石川史志/石崎勝/石田浩子/石原京子/市ヶ谷教会/市ヶ谷教会婦人会/伊東節子/ダイドードリンク東京株式会社/上原文子/浦和ルーテル学院/大分教会/大塚眞佐子/大中真理/大野英雄・久子/大森律子/岡部瑞子/小野みよ子/浦田教会女性会/上窪松子/河野悦子/神崎伸/カンバーランド長老教会国立のぞみ教会/吉川幸子/京谷信代/京都教会/釧路教会/倉重ミドリ/グリテバック・ローウェル&順子/神水教会教会学校/グループ・ワークキャンプ同窓会/恵泉幼稚園/小泉潤/甲府教会/古財久美/児島和子/小菅可代/小松かつみ/小宮俊作・武子/西条ルーテル幼稚園園児/桜井永之/佐藤義雄/下関教会シャローム会/杉浦りえ/鈴木広子/鈴木やす/須永敏子/聖望学園(マイケル・ピースカー)/関口佳子/関本憲弘/高田紀子/高橋ふく子/立山久美子/田中美紗子/谷口恭教/玉名教会/玉名ルーテル幼稚園/柘植春子/綱春子/都南教会教会学校/中川浩之/中川陽子/中村孝治・敬子/西恵三・千

### 編集後記

三宮麻由子さんの『音をたずねて』(文藝春秋、2008年)によると、彼女が入学した上智大学の入学式で、学長が新入生にこう語ったそうです。「この学校は四百年の歴史を持っています。こう言う江戸時代に上智はなかったはずなのと思うでしょう? 確かに大学はありませんでしたが、日本にキリスト教を伝えたザビエルが、いつか日本にも大学を作りたいという希望を残しました。明治以降、キリスト教禁止令が解かれた日本で、ザビエルの希望を実現しようとした人たちがこの学校を作りました。だから、あなた方はザビエルの志のもとに集まった大切な学生です。この学舎で大いに勉強なさってください。心を鼓舞するメッセージですね。何百年後も色あせない、確かなビジョンに立った歩みをJELAもしたいものです。(M)

**JELA**  
 Japan Evangelical Lutheran Association  
 日本福音ルーテル社団